

2024年2月26日号 循環経済新聞 7面 掲載

3曜日)

週刊循環経済新聞

(第3種郵便物承認)

第1670号

新たな製品・発想の開発へ

日本シーム MIRAIL Labo を設置

リサイクル機器の設計・製造・販売を手掛ける日本シーム(埼玉県川口市、木口達也会長、☎048・298・7700)は昨年12月25日、新たな発想・製品の開発拠点として「MIRAIL Labo(ミライラボ)」の稼働を開始させた。製品の検証・試験・デモンストレーションだけでなく、コミュニケーションだけにとどまらず、学際連携の製品を開発・試験・検証を行う。3階はコミュニケーションスペースとなっており、80~100人程度収容可能なオープンスペース(150㎡)のプロジェクターを完備している。

同社では2020年3月に事務所を含むテラスセンターを竣工し、その後、コロナ禍を経て問い合わせが4年前の3~4倍に急増した。既存のテストセンターだけでは需要に

追い付かない状況となり、さらに次世代装置の開発を追究したいという思いからMIRAIL Laboの設置を決めた。

木口会長は「MIRAIL Laboでは新たな製品を開発するだけでなく、『仕事』と『学び』を同時に実現する。この場所から独創的な新しい取り組みが生まれ、皆に生き生きと働いてもらいたい。MIRAIL Laboの設置に先駆けて昨年10月には組織横断型の業務統括部とタスクフォースを立ち上げた。タスクフォースではコミュニケーションスペースを活用したヨカ教室やディスカッション、地域の一般の方を対象としたオープンファクトリー等さまざまな企画が立ち上がっている。一見仕事とは関係のないことと思えても学べることは多い。そうした人間力の向上にも役立ててもらいたい」とMIRAIL Labo設置の経緯を語った。



MIRAIL Labo外観



テラファクトのようす

備)の他、大会議室・小会議室(モニターを完備)、ウェブ会議用の個室スペース(ネットワーク設備を完備)、3部屋を完備している。コミュニケーションスペースでは外部講師を招いた営業研修・講義が行われる他、大小規模のミーティング、来客を招いたイベント等が行われるようになるという。

繊維用破碎機の取扱を開始
ファー・イースト・ネットワーク
材料が絡みつかないのが特徴



破碎機

村井健児社長、☎03・5919・4380)は、繊維用の破碎機(Pierre社製)の取扱を開始した。

(ベルギー)を開始した。下動すること絡みつかない。破碎機のベア(幅450mm)は、材料を自動で供給する。ベアの下部も掃除できるようになっている。ふわふわの繊維質の材料を巻き込みながら、圧縮して破碎しやすくなる。ローにはセン



北から南から

り、その日から5年が経過していない。そのため、法第14条第5項第2号イに規定する法第7条第5項第4号ニに該当することになった。法第14条の3の2第1項の規定(第1号該当)により許可

準)に違反したことに よって罰金刑が確定した。法第14条の3の2第1項第1号に該当したため、今回の処分を受けることになった。

焼却禁止違反で 収運業許可を取消 (三重県)
三重県は1月31日、中部産業(津市、寺家直史社長)の産業廃棄

廃棄物処理法1項の規定と同社の事業場り検査した結果、物(伐採木や野外焼却を確このことが法2(焼却禁止)に該当するため

タイヤ工業 アシ
医療用品メ
イ工業)
尾浩紀社長
・282
は、アシ
「DARW
akobe
シスト
eclude)